

A 基礎 春と夏の景色

練習 全8問 目安20分

仮名遣い・古語・景色の要素を確認する。

字数指定のない答えは、必要な内容を簡潔に書きましょう。選択問題は指定された記号を○で囲みます。

本文 枕草子

① 春は、あけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこし明かりて、紫だちたる雲の、細くたなびきたる。

本文 続き

② 夏は、夜。月のころはさらなり。闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。雨など降るも、をかし。

注 山ぎは＝空が山に接している辺り。闇（やみ）＝ここでは月明かりのない夜。

注 本文は出典の表記を採用。教科書によって漢字・仮名・句読点などが異なる場合がある。

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

問1 ①の「やうやう」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問2 ②の「なほ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問3 ①の「あけぼの」の意味を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日が沈むころ

イ 夜が明けるころ

ウ 太陽が真上に来るころ

エ 夜の真ん中

問4 ①で「紫だちたる」と表されているものを、本文から1字で抜き出しなさい。

1

A 基礎 春と夏の景色 続き

練習 全8問 目安20分

本文・注は、このセットの冒頭（問題 1 ページから）を参照。

問5 ①の雲は、どのような形で空にかかっていますか。「細く」を使って20字以内で説明
しなさい。

[illegible]

問6②の「さらなり」の意味として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 以前より悪い
イ 初めてのことだ
ウ 全く趣がない
エ 言うまでもない

問7 ②の「ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行く」のは何ですか。

問8 ②の内容に合うものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 月が出ている夜だけをよいとしている。
イ 蛍が一つ二つの夜を、必ず寂しくつまらないとする。
ウ 月の夜、蛍のいる闇夜、雨の夜にもよさを感じている。
エ 雨の夜は、蛍が見えないのでよくないとしている。

B 標準 秋の視点の移り変わり

練習 全8問 目安25分

鳥の動きと遠近、日没後の音を区別して読む。

本文 枕草子

① 秋は、夕暮。夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて、雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はた、言ふべきにあらず。

注 山の端（やまのは）＝山の空に接する辺り、稜線。鳥（からす）。雁（かり）。

注 まいて＝まして。はた＝また。

注 原文の漢字・仮名・句読点の表記は、教科書や底本によって異なることがあります。

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

問1 「さへ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問2 鳥の様子を表す「あはれなり」の意味として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア

しみじみと心にしみる。
- イ

ばかばかしくて笑ってしまう。
- ウ

恐ろしくて見るができない。
- エ

苦しんでいて気の毒だ。

問3 鳥が急いで飛んでいるのは何のためですか。20字以内で説明しなさい。

		20																	

18

問4 「三つ四つ、二つ三つ」は、何の数を表していますか。

B 標準 秋の視点の移り変わり 続き

練習 全8問 目安25分

本文・注は、このセットの冒頭（問題3ページから）を参照。

問5 「雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆる」から想像できる様子を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雁が一羽だけ、作者の手の上に止まっている。

イ 雁が鳥を追いかけて、近くの木に入る。

ウ 雁が小さく縮んで、見えなくなる。

エ 雁が遠くで列を作って飛び、小さく見えている。

問6 夕暮れからさらに時間が進んだことを示す部分を、本文から6字で抜き出さないさい。

						6
--	--	--	--	--	--	---

問7 「日入りはてて」の前後で、注目するものはどう変わりますか。前後の具体例を入れ、45字以内で説明しなさい。

																		18	
																		36	
									45										

問8 「風の音、虫の音など、はた、言ふべきにあらず」を、評価が伝わるように現代語に訳しなさい。

C 応用 冬の朝と昼の対照

練習 全8問 目安25分

指示内容と評価の変化を、情景の変化に結び付ける。

本文 枕草子

① 冬は、つとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。霜のいと白きも。またさらでも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭持てわたるも、いときづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりて、わろし。

注 霜（しも）。火桶（ひおけ）＝炭火を入れる、暖房用の道具。

注 炭持てわたる＝炭を持って運んでいく。ゆるびもていけば＝だんだんゆるんでいくと。

注 原文の漢字・仮名・句読点の表記は、教科書や底本によって異なることがあります。

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

問1 「つとめて」の意味を、現代の言葉で書きなさい。

問2 「またさらでも」は「また、そうでなくても」という意味です。「そう」に含まれる二つの状態を説明しなさい。

問3 寒い朝に人がする行動を、本文から分かる範囲で二つ答えなさい。

問4 「つきづきし」の意味として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 危険だ

イ 珍しい

ウ ふさわしい

エ 騒がしい

C 応用 冬の朝と昼の対照 続き

練習 全8問 目安25分

本文・注は、このセットの冒頭（問題5ページから）を参照。

問5 作者がよくないと評価していることを示す語を、本文から3字で抜き出さない。

			3
--	--	--	---

問6 昼になると起こる変化として、本文に合うものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 寒さが強まり、雪が降り始める。

イ 寒さがゆるみ、火桶の火が白い灰の多い状態になる。

ウ 霜が真っ白になり、初めて火をおこす。

エ 火桶を運び出し、雨の中で火を消す。

問7 作者は、朝と昼の火に関わる様子をどう評価し分けていますか。違いが分かるように50字以内で説明しなさい。

[illegible]

問8 この段落の作者の見方として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自然の景色に加え、人の暮らしや時間による変化にも注目している。

イ人の行動を全く見ず、雪の深さだけを説明している。

ウ冬なら、どんな時間や景色にも同じように趣があるとしている。

工 寒さを嫌い、冬の朝より暖かい昼のほうをよいとしている。

D 確認テスト 四季を読み比べる

確認テスト 全8問 目安30分 100点

言葉と根拠を確認し、四季の描写を100点でまとめる。

本文 枕草子

① 春は、あけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこし明かりて、紫だちたる雲の、細くたなびきたる。

本文 続き

② 夏は、夜。月のころはさらなり。闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。雨など降るも、をかし。

本文 続き

③ 秋は、夕暮。夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて、雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はた、言ふべきにあらず。

本文 続き

④ 冬は、つとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。霜のいと白きも。またさらでも、いと寒きに、火など急ぎおこして、炭持てわたるも、いとしきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりて、わろし。

注 山ぎは＝空が山に接している辺り。闇（やみ）＝ここでは月明かりのない夜。

注 本文は出典の表記を採用。教科書によって漢字・仮名・句読点などが異なる場合がある。

注 山の端（やまのは）＝山の空に接する辺り、稜線。烏（からす）。雁（かり）。

注 まいて＝まして。はた＝また。

注 霜（しも）。火桶（ひおけ）＝炭火を入れる、暖房用の道具。

注 炭持てわたる＝炭を持って運んでいく。ゆるびもていけば＝だんだんゆるんでいくと。

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

D 確認テスト 四季を読み比べる 続き

確認テスト 全8問 目安30分 100点

本文・注は、このセットの冒頭（問題7ページから）を参照。

問1〔10点〕②の「飛びちがひたる」の「ちがひ」を現代仮名遣いに直しなさい。

問2〔10点〕①の「あけぼの」と④の「つとめて」の意味を、順に答えなさい。

問3〔10点〕②③で用いられる「をかし」の意味を、現代の言葉で答えなさい。

問4〔10点〕③の「寝どころへ行く」の主語と「つらねたる」の主語を、順に答えなさい。

問5〔15点〕②では、蛍の数と光り方のどんな違いを取り上げていますか。二つの場面を40字以内で説明しなさい。

																			18	
																			36	
																				40

D 確認テスト 四季を読み比べる 続き

確認テスト 全8問 目安30分 100点

本文・注は、このセットの冒頭（問題7ページから）を参照。

問6〔15点〕①の「紫だちたる雲の、細くたなびきたる」を、雲の様子が分かるように訳しなさい。

問7〔15点〕④で、雪や霜がなくても作者がよいとするのはどんな様子ですか。35字以内で説明しなさい。

[illegible]

問8〔15点〕 四季の文章に見られる特徴として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 春から冬まで、気温の測定値を順に報告している。

イすべての季節で、雪や霜が最もよい景色だとしている。

ウ 鳥や虫の名前だけを並べ、生き物を分類している。

エ 季節ごとに好ましい時を示し、具体的な景色や暮らしに評価を添えている。

得点 / 100点

解き直した日 月 日